

長崎居留地にあった 朝鮮カトリック教会の臨時拠点

タイトルを一見すると、“一体、どういうこと？”と怪訝に思われる方が大半かもしれませんが、それもそのはず、韓国のカトリック教会史研究者の間でもあまり知られていない、きわめてホットなテーマなのです。

朝鮮カトリック教会は、プティジャン司教やド・ロ神父が所属していたパリ外国宣教会が担っていました。ところが、朝鮮王朝による厳しい弾圧のため、宣教拠点を朝鮮国外に置いていた時期があり、そのひとつが長崎でした。

「市民セナリヨ」では、その拠点が長崎居留地のどこにあったのか、その時期に何があったのかについて、朝鮮教会の宣教師たちの書簡やプティジャン司教の書簡、そして長崎居留地関係の史料を交えながらご紹介したいと思います。

◆日時：2021年**6月5日(土)**13:30~15:00

◆会場：**浦上キリシタン資料館コミュニティースペース**
長崎市平和町1-1-9 TEL:095-807-5646

◆講演：**宮崎 善信**（長崎外国語大学非常勤講師）



長崎県立長崎東高等学校卒。上智大学外国語学部英語学科を卒業後、西江（ソガン）大学文学部史学科を経て、高麗大学大学院韓国史学科修士課程修了。専攻分野は、韓国カトリック教会史、近代韓仏関係史、近代日韓カトリック教会関係史。韓国滞在中に駐大韓民国日本国大使館専門調査員（1999年～2002年）。朝鮮史研究会、朝鮮学会、キリシタン文化研究会、キリスト教史学会等に所属。

◆参加費：500円 ◆定員：新型コロナウイルス対策のため20名で〆切

◆お申し込み：浦上キリシタン資料館 TEL：095-807-5646
※お名前とご連絡先をご連絡ください。

◆企画・問い合わせ：

NPO 法人  **アジェンダNOVAながさき**
～長崎の文化を考える会～

<http://feature.jp/agenda>

代表 林田慎一郎 090-7923-7435 linden@ae.wakwak.com